



2014-15 年度テーマ

第2670地区

宿毛ロータリークラブ会報



■会長	筒井 大八	■職業奉仕委員長	小栗 学
■幹事	西田 教世	■社会奉仕委員長	竹葉 良仁
■SAA	小栗 学	■国際奉仕委員長	立田 雅弘
■クラブ奉仕委員長	松本 茂	■広報委員長	小松 広行

■例会日：毎週木曜日	12:30~13:30	■事務所	〒788-0003
■例会場：宿毛市幸町	秋沢ホテル		高知県宿毛市幸町 6-43
URL	http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/		TEL 0880-63-3416
E-Mail	sukumorc@mb.gallery.ne.jp		FAX 0880-63-3417

例会報告 第2447回 平成26年10月30日(木曜日) 天気：曇り

- 例会司会：小栗 SAA
- 開会点鐘：筒井会長
- Rソング：奉仕の理想
- ゲスト：宿毛市危機管理課長 楠目健一様

四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■会長報告 筒井会長

ガバナーより西田幹事にガバナー補佐委嘱状が届きました。11月8日徳島にてガバナー補佐研修会の案内も同時に届いています。

10月23日に50周年記念誌の編集委員会を開催しました。25周年記念誌を参考に編集していきます。

25周年記念誌は全員が原稿を書いていますので今回も全員に原稿を提出して頂きます。

原稿用紙2から3枚程度。テーマは自由。写真は1枚。提出期限は12月末。宜しくお願い致します。

委嘱状

宿毛ロータリークラブ 西田教世殿
国際ロータリー第2670地区2014-2016年度高知第Ⅱ分区ガバナー補佐に委嘱します。



■幹事報告 田淵副幹事

- ガバナー事務所より：
 - 11月のレートのお知らせ(1ドル=106円)
 - 地区大会仮登録のお願い 2015年4月17日-19日松山市
 - ジャパン・ロータリーデーⅡ in東京開催のご案内
- 宿毛マラソン実行委員会より：
 - 宿毛マラソン第3回実行委員会の開催について

欠席届 17名

50周年記念式典の写真が出来ました。

■プログラム 竹葉企画委員長

宿毛市危機管理課長 楠目健一様
防災について



この度は宿毛RC例会にお招きありがとうございます。日頃より宿毛市防災業務にご協力頂きお礼を申し上げます。近い将来発生が指摘されています南海トラフ巨大地震。最大震度7、マグニチュー

ード9.1。千年に1度よりも低い頻度で発生すると発表されています。

最大クラスの震度の場合、茨城県から沖縄県までの40都道府県で危害が発生し220兆3千億円。阪神淡路大震災の20倍、東日本大震災の10倍を超え実に国家予算の2倍を超える額となっています。

高知県でも10兆6千億円。死者数は全国で32万3千人。高知県では4万9千人と推定されています。

宿毛市では最大震度6強の揺れが3分程度続くことが想定されています。津波の浸水は沿岸部で約10m。市内で約7m程度。死者数は約2,500人。

宿毛市では震災への対策として現在避難路や避難場所の整備をはじめ、防災蓄倉庫の設置等を進めています。避難場所や避難ビルを記入した津波ハザードマップを作成し10月1日に全戸配布を致しました。

今年度からは二次避難となる学校等の公共施設へ計画的に飲料水食料の備蓄を行う予定です。

しかしながら震災の被害は津波だけではありません。宿毛市では長期浸水の問題が指摘されています。

最大クラスの地震発生で宿毛市は最大2.4mの地盤沈降が想定されています。高知県内で最大となっています。これに満潮時の水位1.1mをプラスすると3.5mとなり標高3.5mより低い土地が長期間浸水すると予想されています。

この地盤沈降は100年で8割程度しか戻らないとされています。

最大浸水面積は559ha。和田地区の一部、市内、西地区にかけて広い範囲で浸水が予想されています。これは高知市の3,000haに次ぐ県下2番目に広い浸水面積となっています。

こうした事態に備えるために昨年度宿毛市では国・県と共に長期浸水対策検討会を組織し今年度、

止水・排水・住民避難対策について協議を行い計画を取りまとめる予定。

来年度以降、堤防の耐震化、嵩上げ等具体的な対策を実施していく予定。

最大クラスの地震によって47避難所のうち16避難所が津波で浸水。

市内全体で6千人を超える方を収容する避難所が不足。

現在避難所の仮設住宅を設置する土地を萩原・小深浦地区の高台整備に取り組んでいます。

こうした宿毛市独自の対策に加え県と幡多地域の自治体で市町村間をまたぐ広域避難についての検討も進めています。

幡多地域では宿毛市を含む3自治体で約1万2千人を収容するための避難所が不足する結果となっています。

今後避難所として使用できる場所がないか等さらに検討を進める予定。

愛媛県南予と幡多地域の自治体で組織する四国西南サミットでも広域避難についての議論を始めています。

幡多地域で避難所が不足する一方で愛媛県側では約5万人程度収容が可能。

今後避難ルートの検証や避難手段の検討等を協議を進める予定。

震災対策の内命をつなぐ対策については一定の進捗となっていますが一方命を守る対策については遅れているのが現状です。特に地震の揺れから自分の命を守り、倒壊家屋から避難スペースを確保するための手段として住宅耐震改修、ブロック塀撤去改修、家具転倒防止等の手段がありますが、これらの対策にかかる補助事業の活用が芳しくありません。

地震の揺れ対策を取らずして高台や避難ビルにたどりつくことは出来ませんし逆にこれらの対策をした上で避難開始のタイミングをゆれが収まって10分以内に行動することで生存率が大幅にアップする結果も出ています。

死者数も数人程度になるというデータも出ています。

まだ対策ができていない方は是非補助事業の活用を検討して下さい。

こうした震災への対策が急がれる一方で地球温暖化による台風や竜巻、豪雨等の風水害による被害が全国的に多くなっています。

今年8月に広島市で発生した大規模な土石流。

局地的な大雨によって住宅地が土石流に流され74人の方が犠牲となりました。

これ以外にも高知市や北海道、京都府の福知山市をはじめ三重県では全国では初めて大雨特別警報が発表されました。

気象庁は平成26年8月豪雨と定め30年に1度いつ、どこで発生してもおかしくない時代に入ったとして局地的な豪雨を事前に全て予測するのは困難であるとコメントしています。

大雨が降っている場合は各自が五感をふるに使うって地盤の変化等を敏感に察知していくことが必要だと思います。特に土砂災害は必ず予兆の発生があります。

地面から水、石が転がる、轟音、泥の匂い等さまざまな現象が起こります。

このような予兆があった場合行政からの避難指示を待つことなく自主的に早め避難を心掛けて下さい。

日本は地震・台風・豪雨・土砂災害・火山の噴火等常に災害と隣合わせの災害列島であると年頭においておく必要があります。

事前に心構えをしておくことで災害時の冷静な対応に繋がって行きます。

事前の備えと迅速な避難行動をお願い致します。

本日はありがとうございました。

